

## 抗がん剤の副作用について No. 5

### 末梢神経障害

#### はじめに

末梢神経とは、脳や脊髄から分かれた後の、体の中に分布する神経をいい、熱さ、冷たさ、痛さといった温痛覚や触覚を伝え、また、手足の位置、運動の変化、振動などを認識する働きをします。がん化学療法に伴い、これが障害されると、しびれや痛みが現れたり、痛みや熱さ、冷たさなどに対する感覚が鈍くなったりします。

#### 末梢神経障害を起こしやすい抗がん剤

( )は商品名

##### 1 植物由来

パクリタキセル (タキソール)、ドセタキセル (タキソテール)、  
エトポシド (ラストテット)

##### 2 植物アルカロイド

ビンレルビン (ナベルビン)、ビンクリスチン (オンコビン)  
ビンブラスチン (エクザール)、ビンデシン (フィルデシン)

##### 3 代謝拮抗剤

フルオロウラシル (5-FU)、シタラビン (キロサイド)

##### 4 白金製剤

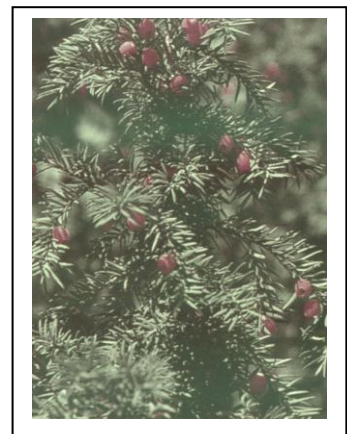
シスプラチン、カルボプラチン (パラプラチン)  
オキサリプラチン (エルプラット)、ネダプラチン (アクプラ)

##### 5 アルキル化剤

イホスファミド (イホマイド)、メルファラン (アルケラン)

##### 6 抗生物質

アムルビシン (カルセド)、ピラルビシン (テラルビシン)  
エピルビシン (ファルモルビシン)



タキソール、タキソテールの原料  
(ヨーロッパイチョウ)

## 末梢神経障害の症状

- 1 指先に皮一枚貼った感じ
- 2 手袋・靴下をはいている感じ
- 3 足・手のぴりぴりする感じ、しびれ
- 4 筋力低下、脱力感
- 5 筋肉痛、関節痛・・・など

このような症状や徴候があつたり、不安や、気になることがあれば、すぐに医療関係者に相談してください。

ほとんどの場合、症状は、抗がん剤の中止により2週間から8週間で軽減、消失しますが、なかには中止後も長期間継続する場合があります。

## 末梢神経障害の薬物療法

しびれなどに対しては、有効性が明らかな薬剤はありませんが、一般的には次のような薬剤が使用されています。

### しびれ症状の緩和

- |                |                           |
|----------------|---------------------------|
| ☆ ビタミン製剤       | ピドキサール錠、メチコパール錠、ビタメジンカプセル |
| ☆ 非ステロイド性消炎鎮痛剤 | モービック錠                    |
| ☆ 漢方薬          | 牛車腎気丸<br>など……             |

### 筋肉痛・関節痛の緩和

- |                |                    |
|----------------|--------------------|
| ☆ 非ステロイド性消炎鎮痛剤 | ボルタレン錠、ロキソニン錠      |
| ☆ 三環系抗うつ薬      | トリプタノール錠、アモキサンカプセル |
| ☆ 漢方薬          | 芍薬甘草湯<br>など……      |

## 日常生活での注意点

ケガ、転倒防止	炊事用のゴム手袋を使う(感覚が一層鈍くなるときは、使わない)。 つまずきそうなものを床に放置しない。 小さなマット、滑りやすいカーペットなどは敷かない。 爪を切りそろえておく。 大きいもの、重いものを動かすときは、無理をしないで手伝ってもらおう。
熱傷の防止	カイロを長時間身につけたままにしない。 ストーブのそばに長時間いない。 熱いものには触れない。
その他	手袋や靴下で保温する。 手指の運動を積極的に行い、末梢神経を刺激する。 温かい湯、冷たい水に交互に手足をつけて、末梢循環をよくする。